

2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月8日

上場会社名 セガサミーホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6460 URL <https://www.segasammy.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長グループCEO (氏名) 里見 治紀
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員財務経理本部長 (氏名) 大脇 洋一 (TEL) 03-6864-2400
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 2021年12月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	134,893	22.4	14,678	—	14,752	—	12,012	—
2021年3月期第2四半期	110,225	△33.4	△3,076	—	△3,583	—	△21,716	—

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 13,391百万円(—%) 2021年3月期第2四半期 △18,614百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	51.08	50.93
2021年3月期第2四半期	△92.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	423,106	296,451	70.0
2021年3月期	421,599	291,256	69.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 296,218百万円 2021年3月期 290,759百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	10.00	—	20.00	30.00
2022年3月期	—	20.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	305,000	9.8	23,000	251.0	21,500	—	15,000	—	63.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) — 、除外 1社(社名) 株式会社セガグループ
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	266,229,476株	2021年3月期	266,229,476株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	30,732,326株	2021年3月期	31,142,581株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	235,191,643株	2021年3月期2Q	235,091,565株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、2021年11月8日に機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容(映像並びに音声)については、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	110,225	134,893	24,667	22.4
営業利益	△3,076	14,678	17,755	—
経常利益	△3,583	14,752	18,335	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△21,716	12,012	33,729	—
	円	円	円	%
1株当たり四半期純利益	△92.38	51.08	143.46	—

エンタテインメントコンテンツ事業を取り巻く環境としては、コンシューマ分野におきまして、デジタル化の進展に伴い、PCや家庭用ゲーム機などにおけるダウンロード販売の拡大や、クラウドゲームサービスの登場、プラットフォームの多様化など、市場環境には大きな変化が見られます。また、新たなビジネスモデルやサービスによる収益機会の多様化も期待され、グローバルでのゲーム市場の活性化や成長に関心が高まっています。アミューズメント機器市場につきましては、プライズカテゴリーを中心に回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い施設稼働の本格的な回復には至っておりません。

遊技機業界におきましては、来年1月末に予定されている旧規則機の撤去期限に向けて、新規規則機への入替が進んでおり、パチンコ遊技機については新規規則機の人気タイトルが複数登場するなど、順調に入替が進んでおります。パチスロ遊技機については本年9月より新基準6.2号機の投入が開始されており、今後も引き続きゲーム性の幅が広がることによって、ユーザーに支持されるタイトルの導入が期待されます。一方で、世界的な半導体不足により供給体制が不安定に推移していることから、部材調達リスクが顕在化しております。

リゾート業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により旅行需要は低調に推移しております。なお、『特定複合観光施設区域整備法』にかかる区域整備計画の認定申請期間の公表に伴い、IRの誘致を希望する地方自治体においてはIR事業者の公募であるRFP(Request for Proposal)が実施され、事業者選定が進むなどしておりますが、横浜市においては事業者公募の中止が発表されております。

このような経営環境のもと、当第2四半期連結累計期間における売上高は134,893百万円（前年同期比22.4%増）、営業利益は14,678百万円（前年同期は営業損失3,076百万円）、経常利益は14,752百万円（前年同期は経常損失3,583百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は12,012百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失21,716百万円）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

なお、文中の各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	97,026	107,474	10,448	10.8
セグメント間売上高	440	399	—	—
売上高合計	97,467	107,874	10,407	10.7
経常利益	16,856	22,709	5,853	34.7

コンシューマ分野におきましては、フルゲームについては、新規IPの『HUMANKIND™』をPC向け及びXbox Game PassやStadia™等の幅広いプラットフォームに提供したことをはじめ、過去作のリマスター版である『ソニックカラーズアルティメット』や、シリーズ最新作の『LOST JUDGMENT：裁かれざる記憶』を世界同時発売したほか、リピートタイトルについても堅調に推移したことにより、販売本数は1,404万本（前年同期は1,908万本の販売）となりました。また、一部のタイトルについてロイヤリティ収入を計上しております。F2Pについては、新作タイトル及び既存タイトルともに堅調に推移いたしました。

アミューズメント機器分野におきましては、プライズやUFOキャッチャー®シリーズ等の販売が好調に推移いたしました。

映像・玩具分野におきましては、劇場版『名探偵コナン 緋色の弾丸』の配分収入等を計上したほか、玩具において新製品及び定番製品を販売いたしました。

以上の結果、売上高は107,474百万円（前年同期比10.8%増）、経常利益は22,709百万円（前年同期比34.7%増）となりました。

《遊技機事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	10,758	23,335	12,577	116.9
セグメント間売上高	81	168	—	—
売上高合計	10,839	23,504	12,664	116.8
経常利益	△12,425	△1,324	11,100	—

遊技機事業においては、パチスロ遊技機では31千台の販売（前年同期は4千台の販売）、パチンコ遊技機では23千台の販売（前年同期は11千台の販売）となり、概ね想定通りに推移しました。前期実施の構造改革効果等により、固定費は引き続き低水準で推移しております。

以上の結果、売上高は23,335百万円（前年同期比116.9%増）、経常損失は1,324百万円（前年同期は経常損失12,425百万円）となりました。

(パチスロ遊技機)

パチスロコードギアス 反逆のルルーシュ3
パチスロ樂園追放

(パチンコ遊技機)

P蒼天の拳 天刻
P火曜サスペンス劇場 最後の推理
デジハネPA真・北斗無双 第2章 連撃Edition

《リゾート事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	2,245	3,832	1,586	70.6
セグメント間売上高	38	93	—	—
売上高合計	2,284	3,925	1,641	71.8
経常利益	△4,662	△3,955	706	—

リゾート事業におきましては、『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い集客数の落ち込みが見られ、施設利用者数は前年同期比で155.0%と回復したものの、新型コロナウイルス感染症影響前の2019年4月～9月の6ヶ月比較で72.0%となりました。

海外におきましては、PARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.（当社持分法適用関連会社）が運営する『パラダイスシティ』において、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う各国の渡航制限の影響等により、2021年1月～6月のドロップ額（テーブルにおけるチップ購入額）が前年同期比で40.3%、カジノ来場者数が前年同期比58.4%となる等、大幅な落ち込みが見られました。

※PARADISE SEGASAMMY Co., Ltd. は12月決算のため3ヶ月遅れで計上

以上の結果、売上高は3,832百万円（前年同期比70.6%増）、経常損失は3,955百万円（前年同期は経常損失4,662百万円）となりました。

なお、当社はコンソーシアムを組成し、2021年6月に横浜市の実施する『特定複合観光施設設置運営予定者』の公募に応募しておりましたが、2021年9月に横浜市が公募の中止を決定したことに伴い、横浜市におけるIR事業への参画については中止せざるを得ない状況となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年5月13日に公表した通期連結業績予想を修正いたしました。詳細については、2021年11月8日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	154,972	113,539
受取手形及び売掛金	38,176	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	38,710
有価証券	721	35,000
商品及び製品	7,514	10,367
仕掛品	31,941	39,112
原材料及び貯蔵品	13,456	15,335
その他	29,812	24,209
貸倒引当金	△298	△318
流動資産合計	276,295	275,955
固定資産		
有形固定資産		
土地	18,396	18,348
その他(純額)	43,221	41,910
有形固定資産合計	61,617	60,259
無形固定資産		
のれん	4,711	3,963
その他	10,288	10,287
無形固定資産合計	14,999	14,250
投資その他の資産		
投資有価証券	38,323	37,331
その他	30,776	35,707
貸倒引当金	△413	△398
投資その他の資産合計	68,686	72,641
固定資産合計	145,304	147,150
資産合計	421,599	423,106

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,994	19,347
未払法人税等	839	2,034
引当金	9,416	4,530
資産除去債務	105	—
その他	32,421	31,160
流動負債合計	59,777	57,072
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	42,000	42,000
退職給付に係る負債	4,542	4,580
資産除去債務	2,933	2,867
解体費用引当金	420	420
その他	10,669	9,715
固定負債合計	70,566	69,582
負債合計	130,343	126,655
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	118,048	117,689
利益剰余金	200,551	204,286
自己株式	△53,561	△52,854
株主資本合計	294,991	299,073
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,930	2,156
繰延ヘッジ損益	△725	△287
土地再評価差額金	△1,109	△1,109
為替換算調整勘定	△3,867	△3,355
退職給付に係る調整累計額	△459	△258
その他の包括利益累計額合計	△4,231	△2,854
新株予約権	—	25
非支配株主持分	496	207
純資産合計	291,256	296,451
負債純資産合計	421,599	423,106

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	110,225	134,893
売上原価	67,235	77,475
売上総利益	42,990	57,417
販売費及び一般管理費	46,066	42,739
営業利益又は営業損失(△)	△3,076	14,678
営業外収益		
受取利息	59	58
受取配当金	308	77
投資事業組合運用益	173	1,883
為替差益	—	400
投資有価証券評価益	2,218	—
その他	462	273
営業外収益合計	3,222	2,693
営業外費用		
支払利息	227	142
持分法による投資損失	2,476	1,895
支払手数料	39	52
投資事業組合運用損	276	365
為替差損	482	—
その他	225	164
営業外費用合計	3,729	2,619
経常利益又は経常損失(△)	△3,583	14,752
特別利益		
固定資産売却益	9	2
投資有価証券売却益	13	16
新株予約権戻入益	812	—
関係会社株式売却益	112	698
助成金収入	566	36
その他	0	2
特別利益合計	1,514	756
特別損失		
固定資産売却損	0	1
減損損失	70	203
新型コロナウイルス感染症による損失	2,608	108
構造改革費用	18,428	—
その他	0	38
特別損失合計	21,107	352
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失(△)	△23,175	15,155
法人税、住民税及び事業税	△2,476	3,527
法人税等調整額	571	△386
法人税等合計	△1,905	3,141
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△21,270	12,014
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△21,716	12,012
非支配株主に帰属する四半期純利益	446	1

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,639	220
繰延ヘッジ損益	△7	△7
為替換算調整勘定	361	△131
退職給付に係る調整額	△4	200
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,333	1,095
その他の包括利益合計	2,655	1,376
四半期包括利益	△18,614	13,391
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△19,062	13,389
非支配株主に係る四半期包括利益	447	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、当社の特定子会社であった株式会社セガグループは、当社の連結子会社である株式会社セガを存続会社、株式会社セガグループを消滅会社とする吸収合併により消滅したため、当社の特定子会社に該当しないこととなり、第1四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2020年3月31日 企業会計基準第29号。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、一部製品のコンテンツ更新権の販売について、従来はコンテンツ更新権の販売時に一時点で収益を認識する方法によっておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。また、一部商品の消化仕入れ販売に係る収益について、従来は総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間の損益及び利益剰余金の当期首残高に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2019年7月4日 企業会計基準第30号。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準委員会 2019年7月4日 企業会計基準第10号)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りにおいて、前連結会計年度の有価証券報告書に記載いたしました仮定に重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	エンタテインメント コンテンツ事業	遊技機事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	97,026	10,758	2,245	110,030	194	110,225
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	440	81	38	560	△560	—
計	97,467	10,839	2,284	110,590	△365	110,225
セグメント利益又は損失(△)	16,856	△12,425	△4,662	△231	△3,351	△3,583

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△3,351百万円には、セグメント間取引消去9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,361百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	エンタテインメント コンテンツ事業	遊技機事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	107,474	23,335	3,832	134,642	251	134,893
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	399	168	93	661	△661	—
計	107,874	23,504	3,925	135,303	△410	134,893
セグメント利益又は損失(△)	22,709	△1,324	△3,955	17,429	△2,677	14,752

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△2,677百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,677百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。